

令和7年度 学校経営報告

府中市立四谷小学校

校長 島田 文江

1. 目指した学校像「ファミリアよつや」

令和7年度、創立50周年を祝った四谷小学校の、今後の発展の可能性に期待して、学校と家庭と地域が連携して、家族のように、親しく大きく成長していけるようにと願いました。50周年プラス1年目として教育目標の達成を目指し、ご家庭での支援をお願いし、経営努力を図った評価を◎・○・レ点で表現したのが下記の一覧表です。成果と課題については、2.今年度の振り返りでご説明します。

ファミリア四谷の合言葉”よつや”の具現化

【教育目標】		
○ 学ぶよろこび	□ ふみ出すつよさ	◎ 人へのやさしさ
レ 体験を通じた表現力育成	レ 目標に向けたチャレンジ	レ 自他の生命や人権の尊重
レ 基礎・基本の学力の定着	□ 運動・生活習慣の定着	レ 自己調整能力の育成
【家庭での望ましい支援】		
○ 学びの習慣化	○ つよさを支える	◎ やさしさの育成
レ 会話・読書の充実	レ 早寝・早起き・朝ごはん等	レ 幼保から小への入口を重視
レ 家庭学習の習慣化	レ 1日1時間身体を動かす。	レ チャレンジを認め、励ます。
【経営努力3項目】		
◎ 言語活動の充実	□ 安全安心の徹底	◎ 幼保小中の連携
レ 校内研究(保幼小)の連携	□ 生活・交通・災害安全	レ 小のカリキュラムを見直す。
レ 図書室活用の推進	レ 知識習得と実践力の育成	レ 多様な人との関りを重視
レ デジタル図書・Web博物館	レ 地域,保護者,ボランティア連携	レ ヨツヤキッズセブン活用

2. 今年度の振り返り

①学力・体力の向上

【教育目標】学ぶ喜び【家庭のご支援】学びの習慣化【言語活動の充実】は、○が2つ◎が1つ

- ・キーワードを、安全・安心とし、全学年で“スタートカリキュラム”を実施した。
- ・TGGに合わせ1学期に英単語検、2・3学期に漢検、3学期に計算検定にチャレンジした。
- ・児童用タブレットで、デジタル図書に親しんだ。いつも読みかけの本を手元に置いた。

- ・全学年の児童が、ロボットや球の形状で、音や光の出る、触れるプログラミング学習した。
- ・府中郷土の森への遠足、理科・社会科見学、休み時間の長縄、つなひき等で体力を付けた。

就学前や前学年の学習と生活を振り返ることで、安心して学ぶことができるような環境を作ることができた。また、学んだことを確認するための各種チャレンジ検定を実施し、漢字検定は、再チャレンジの機会として1回多く実施した。学び方については課題が残る。自らの課題を設定し自由進度で学ぶこと、効果的な家庭学習については次年度の課題としたい。

②教職員の資質向上(校内研究)

【教育目標】人への優しさ【家庭のご支援】優しさの育成【幼保小中の連携】は、どれも◎

- ・キーワードを、かかわる・つながる・なかよしとし、全学年で“**かかわる活動**”に取り組んだ。
- ・縦割り班“スマイルひろば”で、遊んだり、あいさつ運動に取り組んだりした。
- ・児童用タブレットで、デジタル図書に親しんだ。いつも読みかけの本を手元に置いた。
- ・夏季休業中に、近隣8園の保育士体験をし、学びや育ちのつながりを体感した。
- ・地域やPTAにゲストティーチャーをお願いし、生活科や総合的な学習の時間を充実させた。

地域のこどもを、関係者の皆で育てる意識を、“ファミリアよつや”とし、大切にできた。地域の有識者による読み聞かせ、漢字採点ボランティア、タグラグビーの朝練について協力者が生まれたことは成果である。中学との連携を推進するために、日常的に中学校の授業を参観したり、中学の教科書を予め予習したりする教員が出てきたので、継続・発展させることが課題である。

③保護者・地域との連携

【教育目標】ふみだす強さ【家庭のご支援】強さを支える【安全・安心の徹底】は、○が1つ

- ・キーワードを、よつやキッズセブンとし、規範意識を高めた。
- ・基本的な学習・生活・運動の習慣を確立させる具体的な取組みの徹底は図れなかった。
- ・自然を生かした探究的な体験や学習を充実させた。
- ・10月11日(土)の第八中学校の訓練に参加し、防災意識を高めようとした。
- ・学校ホームページやブログ、Web博物館を通して、学校から情報の送受信に努めた。

分かりやすく守りやすい学習や生活のきまりとして“よつやキッズセブン”を定着させたいが、まだ定着してない。また、放課後の運動量には個人差があるので、登下校や学校にいる間に、積極的に体を動かす体験を積ませる必要があった。特に、始業前の待ち方、道の歩き方、遊具の使い方を徹底させたい。中学校の水害避難訓練への参加をもっと呼びかけるべきであった。

④府中市教育委員会の教育施策との関連

全児童の学びを保証するために、ひばり教室と連携して、サポートルームの学びを充実させた。小中学校と連携して義務教育9年間の見通しを図った。2年生以降の学びの面のスタートカリキュラムの充実と、6年生から中学校へのアプローチカリキュラムは今後、ますます必要になる。

⑤働き方改革の推進

次年度に向けて、3部会3委員会を合体させて、大きく3つのチームにまとめることにした。例えば、生活指導・特別支援チームでは、生活指導主任がチーム長となり、複数の副リーダーと共に有機的につながり、統一感や調和を保った活動ができるようにしていく